

*元年度の改善プランの検証

令和元年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果は、対象学年の4、5、6年生で、区の目標値をすべて上回っていた。しかし、コース別に細かくみると、以下の課題が挙げられる。習熟度が中程度以上のコースでは、自分の考えを誰にでも分かるように発表することに苦手意識をもつ児童が多い。今後の指導として、自分の考えを根拠を明確にしながら説明するようにさせ、図表や数直線による表現も説明に組み入れるように指導する。また、習熟度が中程度未満のコースの児童では、既習事項が身につけていないために新しい学習の始めから躓く児童がいる。特にかけ算、割り算、数の仕組み、単位などの躓きが多く見られる。上の学年に進むにつれて大きな障害となるため、既習事項を明確にさせ、いつも振り返られるようにして復習や練習する時間を設けたい。図形領域の関心意欲は高いものの、イメージがもちにくいので具体物を使って図形の性質を理解させたり、コンパス・分度器などの扱いを十分に指導して作図の苦手意識をなくしたい。

*2年度の改善プラン

観点	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案		
算数・技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> 足し算・引き算の計算については、概ね正しくできる。しかし、引き算は仕組みを理解するのに時間のかかる児童もいる。かたちづくりや長さ比べ等は理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 念頭で計算できず、指を使っている児童が目立つ。 数の集合数、順序数を正しく理解できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロック操作でのひき算の仕組みを視覚的につかませ、念頭で計算できるまでブロック操作を繰り返し指導していく。 既習事項の復習をする時間を設け知識の定着を図る。生活の中でも意識して使う場面を増やしていく。 	
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算の計算や筆算の仕方を理解し、概ね正しくできている。 長さの学習では、ものさしのcm、mmの目盛り、水のかさの学習では、L、dLマスの目盛りは捉えられても、それらの単位関係の理解が不十分な児童もいる。また、時刻と時間や、時間の経過の理解が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り下がりのある筆算では、下から上を引いてしまったり、くり下がりのない筆算でも繰り下がりをしてしまうことがある。見直しを行わない児童が多い。 L、dL、mLの単位関係が理解できていない児童もいる。 時刻と時間の理解(○分前・○分後の時刻)が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりや繰り下がりを確認しながら、計算問題を繰り返して行う。 単位関係については、デジタル教科書などを用いて視覚的に理解できるようにし、実際に体験する中で量感を育てていく必要がある。 時刻と時間の学習では、年間を通し、学校生活の日常の場面を通じて、指導していく。 	
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 計算は得意とする児童は多いが、ミスが多い。 既習の知識を活用して、問題を解くことができている児童が少ない。 正しく表やグラフをかく、時間の感覚(計算)や長さ・容積の量感を持っていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九が定着していない児童・繰り上がりや繰り下がり計算方法が定着していない児童がいる。九九が出来ないことにより、わり算が出来ない児童がいる。 時間の計算、長さの単位換算が出来ない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別学習として九九や繰り上がり、繰り下がりのある計算をさせ定着を図る。 数直線を書いて、時間の計算をする。単位の換算は、毎回確認してから行う。 2年生までの学習を復習し、基本的なものを身に付けさせる。 	
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 既習の知識を活用して、問題を解くことができている児童が少ない。 計算速度に気を取られ、誤答をする児童が見られる。 大きな数の十進位取り記数法の理解が難しい。 図形を正確に作図できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 三桁×二桁のかけ算、あまりのある割り算を苦手とする児童がいる。 10倍の100倍や÷10÷100の数が理解できない児童がいる。 作図道具を正確に使う事ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りをしながら、基礎基本の定着を図る。正確さを意識させていく。 数を色々な表し方をさせるなど既習の事柄を取り入れていく。 作図やグラフをかく中で、作図道具の使い方を指導していく。正しい線の引き方やコンパスの使い方を意識させていく。 	
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 基本問題はおおむねできている児童が多いが、基礎基本の理解ができていない児童もいる。 計算問題を早く終わらせようとしてミスをしてしまう児童が多数いる。 図形の面積の公式を正しく使えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の見直しを行わない児童が多い。 わり算の商の大体の値を予想して見積もることが難しい。 公式を覚えていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の答えを見積もらせてから計算させる。ノート指導の際、途中式を残す等のポイントを繰り返し指導し丁寧に計算させる。 振り返りをしながら公式などの確認をする。 図や数直線を使って自分の考えの根拠を明らかにさせる。 	
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 基本問題は概ねできている児童が多いが、小数のかけ算・割り算の計算の仕方を正しく覚えていない児童がいる。 特に割合の学習で、「比べられる量」「もとにする量」などを捉えられている児童が少ない。 作図の正確さにかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九の段階でつまづいている児童がいる。 数量関係(単位量あたりの大きさ、百分率とグラフ)の知識・理解に課題がある。 図形の性質や面積・体積を求める公式を使って問題解決ができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中式を残す等丁寧に計算させ、個別で苦手な計算の指導をする。 数直線を用いた指導を充実させる。 図形の既習事項を振り返る時間をとる。 どのような作図が望ましいかを示しながら学習を進める。 	
算数	思考力・判断力・表現力等	一年	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を読んで場面の状況をつかみ、それを立式に結び付けられない児童がいる。特に引き算になる文章問題を読んで、立式のイメージをもつことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 演算決定のための文章の読解力が不足している。特に引き算では、どちらがひかれる数、ひく数なのかとらえることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図にかき表すことから、問題をイメージできるようにしていく。 文章題で分かっている所、聞かれている所に下線を引いたり、絵や図にかき表し解決の仕方を考えたりする活動を取り入れ指導していく。
		二年	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題の文意を捉えて式を立てたり、正しく解決したりする力について個人差がある。算数の技能的な点よりも、問題の理解ができていない児童が多い。問題文を読む前から苦手意識をもってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして問題解決をすることに課題がある。 演算決定のための文章の読解力が不足している児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に文章題では、分かっているところ、聞かれているところに下線を引いたり、解決の仕方を絵や図に描き表したりする活動を取り入れて、指導していく。 図式化したり、デジタル教科書を用いたりすることで、視覚的にも立式の意味をイメージできるようにしていく。
		三年	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題でわかっている事、問われている事を捉える力が弱い。 問題作りには、積極的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題に対して、何が問われているのかを文章から読み取ることが難しい。 加法・減法の繰り上がり、繰り下がりが正しく行えない。また、乗法や除法の意味が理解できていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章にアンダーラインを引いたり、簡単な図で表したりする習慣を付けるよう指導する。 絵や図を多く用いることで、立式の意味を理解できるように指導していく。
		四年	<ul style="list-style-type: none"> 図形や立体の構成要素や、形を正確にとらえ、応用する力が弱い。 問題の文意を捉えて式を立てたり、正しく解決したりする力について個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質を使って問題を解決する道筋が立たない児童がいる。 既習事項を生かして問題解決をすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の学習時には具体物を用意し、児童が頭の中でイメージしやすくなるようにする。また、構成要素なども意識させる。 学習の始めに振り返りをする。図や数
		五年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを持ち分りやすく説明しようとしているが、全く考えられない児童との差が大きい。友達の考えを聞いて付け足したり、自分の考えを改めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する際、数直線や簡単な図を描いて考えようとする際に難しい児童がいる。 難しいと思うと考えることをあきらめて、友達の発言に頼ってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考える時間を十分確保して数直線や線分図の理解を深め、活用を図る。 友達が書いた式を自分の図等で説明する活動や、考えを発表し合っ多様な考え方があることを知る機会を授業の中で設定する。
		六年	<ul style="list-style-type: none"> 考え方を筋道立てて説明しようとしている児童が多いが、用語を適切に用いて的確に説明する力に課題がある。 図形や立体の構成要素や、形を正確にとらえ、応用する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の用語を適切に使えず、既習の事柄を使って考え方を的確に説明する力が弱い。 図形の性質を使って問題を解決する道筋が立たない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を適宜、繰り返し指導し、用語を活用することが定着するようにする。 他の児童の考え方を説明させたり、複数の児童に考え方を説明させたりする時間を設け、説明の仕方をより洗練させていくことが出来るようにする。

算数	学びに向かう力・人間性等	一年	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成や仲間づくり、数の大小、物の順序など、ブロック操作を通して意欲的に学習を進めることができた。計算にも意欲的だが、早さを気にするあまり、計算ミスが目立つ児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数についての感覚を豊かにするために、具体物や半具体物を使って組み立てている。しかし、10のまとまりや10の構成がまだ定着していない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念を視覚的に理解できるようにするために、ブロックや数遊びなどの活動を多く取り入れていく。フラッシュカードなどで朝学習の時間を活用するなど、繰り返し行うことで定着を図る。
		二年	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用い、意欲的に学習に参加する児童が多く見られた。 繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算といった計算問題にも進んで取り組むことができる。 間違えた理由を考えずに先に進んでしまい、定着が図れていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数に対する苦手意識をもっている児童が若干名いる。 具体物を操作しても、それが学習の理解に繋がらない児童がいる。知識として理解するだけでなく、実際の生活とも結び付けて考えていけるようにする必要がある。また、量感を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 時刻や時間、身の回りにあるものの長さ、かさなど、日常活動の中で意識させ、関心を高めていく。 数への概念を豊かにするために、「だいたい〜くらい」といった予想をしながら学習を行うようにする。
		三年	<ul style="list-style-type: none"> 計算は積極的に取り組む児童が多いが、計算ができない児童もいる。文章題について苦手意識をもっている児童が多い。分かり易くノートを書こうとする意識が低い。 自分の考えを説明する活動に意欲的に取り組む児童と苦手な児童には極端な差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数は苦手、学習するのが面倒と思っている児童がいる。集中して最後まで取り組めない様子も見られる。 自分の考えを文章に表したり、発表したりすることに苦手意識のある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な計算を克服できるように日々取り組み自信をもてるようにする。計算の書き方を学年間で統一する。 図などを用いて、自分の考えを書き表せるノート作りを行い、考えを書くことを習慣づける。
		四年	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を最後まで読む、見直しをすることができない児童が多い。 四則計算の力が不十分な児童が多い。 粘り強く考えたり、間違いを修正する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題のおおまかな内容は理解できるが、細かい題意を読み取れない児童、計算が出来ない児童がいる。 課題に対して分からないと諦めてしまう児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 題意を正確に理解できるように問題文をしっかりと読ませ、立式の根拠を考えさせるようにする。計算正確さを意識させる。 生活に関係のある設定して、意欲的に取り組ませるように工夫する。
		五年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組む児童多い。進んで自分の考えを発言する児童が多い。一方で、算数に対して苦手意識があるため、学習の習得をあきらめてしまっている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできても、計算ミスをしてしまう児童が多い。また、単位の書き忘れなども多い。 学習に対する意欲は高いが、自分なりに計算を工夫したりノートをまとめたり、板書を正しく写し取ったりすることが難しい児童は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてや自分の考え、まとめ等をきちんと書けるためのきめ細やかなノート指導を行う。 計算ミスをしてしまう児童に対しては、自分の導き出した答えを検算させる、何度も計算を見直すなどの指導をする。
		六年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む児童がいる一方で、自信がもてず学習に積極的な姿勢が見られない児童も見られる。 友だちの考えの良さを認められず自分の考えに固執する傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する意欲が二極化している。 正解かそうでないかの関心が高く、自分で考えたり、友達とよりよい考えを共有したりしようとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> どの児童も学習に意欲的になれるよう、日常に即した問題を設定する。 集団解決の際、課題に迫るポイントを明確に提示し、焦点化して話し合うことができるようにする。